

精神科領域専門医研修プログラム

- 専門研修プログラム名：岩手県立南光病院連携施設 精神科専門医研修プログラム
- プログラム担当者氏名：高橋 浩二
住 所：〒 029-0131 岩手県一関市狐禅寺字大平 17
電話番号：0191 - 23 - 3655
F A X：0191 - 23 - 9690
E-mail：kouzi-takahashi@pref.iwate.jp
- 専攻医の募集人数：(3) 人
- 専攻医の募集時期：2020年9月1日～ 2021年3月15日

■ 応募方法：

書類は、郵送またはE-mailで受け付けます。

郵送の場合は、【〒029-0131 岩手県一関市狐禅寺字大平17 岩手県立南光病院 専門医研修制度担当】宛てに、表に朱筆で「専門医研修応募書類在中」と記載のうえ、簡易書留で発送してください。

E-mail の場合は<kouzi-takahashi@pref.iwate.jp> (担当者：高橋浩二) へ書類を Word または PDF 形式にて添付し、件名を「精神科専門医研修応募」として送信してください。

■ 採用判定方法：

院長、副院長による面接を行い、書類記載内容とあわせて厳正な審査を行うことにより採用の適否を判定します。

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念 (全プログラム共通項目)

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

2. 使命 (全プログラム共通項目)

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で

安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴

本プログラムは基幹施設である岩手県立南光病院（以下、南光病院）と4施設の研修連携施設により構成される精神科専攻医研修プログラムである。研修連携施設には大学病院、独立行政法人国立病院機構の精神科病院、独自性を有する民間精神科病院が含まれ、いずれも岩手県内の施設である。本研修プログラムを通じて、どこにいても困ることのない臨床医としての素養と実力を身に付けることができると信じるが、将来の選択肢として東北地方にて（とりわけ岩手県にて）活動することを考えている専攻医にとっては、とくに有益な研修プログラムであると考え。基幹施設、連携施設における多様な経験を通じて、臨床のスキルを身に付けると同時に、岩手の地域事情を理解し、地域医療、チーム医療の理解と実践を深めていくことができる。また同時に研修終了時の精神保健指定医の取得も可能である。

基幹施設である南光病院は半世紀以上の歴史を持つ岩手県南の精神科医療の中核機関であり、小児から老人まで、任意入院から措置入院まで、精神科救急から超慢性期まで幅広い症例を経験することができる。スーパー救急病棟、精神科急性期治療病棟を有し、クロザピン療法、m-ECT、LAI(デポ剤)の積極的な使用に力をいれている。地域連携を古くから重視し、110回を超える地域関係者との「両磐精神医療連絡会」の開催を続けており、顔の見えるネットワークを形成し地域との良好な関係を築いている。さらなる特徴として総合病院である岩手県立磐井病院が隣接していることがある。そのためリエゾン・コンサルテーション精神医学や緩和医療の経験も可能である。また夜間休日でも急な身体的変化の際には至急の採血やX-P、CT撮影が可能であり、磐井病院の医師への直接相談、救急の診察を得ることも可能で、単科精神科病院としては身体管理の上で極めて恵まれた環境といえる。

連携施設である岩手医科大学附属病院は、120年を超える歴史と伝統を持ち、地域医療に貢献し続け、岩手県の被災地医療、自殺対策、経済的地域格差、医療資源の偏在など様々な問題に立ち向かうべく地域医療に尽くすことのできる人材を育成してきた病院である。大学病院としては最大規模の78床の閉鎖病棟を有し、身体合併症例、措置症例等に広く対応している。盛岡地区における精神科救急、クロザピン療法、年間250回以上のm-ECTを行っている。2019年9月には矢巾新病院に移転し、大学病院としては初の児童思春期閉鎖病棟を有することとなり、児童思春期精神医学を学ぶ良い機会を提供できる。震災後に開設されたこころのケアセンター、いわてこどもケアセンターや岩手県沿岸部の各地域に開設したサテライト／ブランチを足掛かりとした巡回、診察やメンタルヘルスケア業務により、トラウマケアや災害精神医学についての学習を深めることができる。また大学ならではのリサーチマインドを涵養することができる。

独立行政法人国立病院機構花巻病院は、岩手県中部地区の中核病院として精神科救急を実践し児童から老人まで幅広い疾患を扱い、m-ECT、クロザピン療法、アルコール

ルリハビリプログラム、保健所と連携した都市部とは異なる地域の訪問・往診医療を行っている。医療観察法の指定入院医療機関であることが大きな特徴である。北海道東北地方では2施設しかないうちのひとつであるが、平成17年の心神喪失者等医療観察法施行当初からの豊富な経験を有しており、多くは処遇が困難である症例に対して、厚く医療及び社会資源が尽くされている医療観察法入院医療の実際や精神鑑定の実際といった司法精神医学について深く学ぶことができる。

平和台病院は地域における民間病院としての独自性を高めた活動を行っている。老年精神医学の専門医による指導を受けながら、認知症の周辺症状や老年性精神疾患、高齢者の気分障害などの経験を豊富に積むことができる。精神科作業療法、リハビリテーション、気分障害に対する認知行動療法にも注力しておりそうした経験も可能である。

未来の風せいわ病院では、民間病院ならではの工夫と実行力をもって精神科救急医療、難治性精神疾患治療（クロザピン、m-ECT）、入院患者の地域移行、児童思春期、依存症、認知症、医療観察法通院などの広範な領域に取り組んでおり、豊富な学びを得ることができる。

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数： 19 人
- 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	6 4 5	2 9 3
F1	3 1 0	8 0
F2	3 7 8 0	8 2 0
F3	1 5 9 4	3 6 3
F4 F50	9 4 1	1 4 0
F4 F7 F8 F9 F50	1 6 7 2	3 0 8
F6	6 6	1 6
その他	3 8 8	2 7

2. 連携施設名と各施設の特徴

A 研修基幹施設

- ・施設名：岩手県立南光病院
- ・施設形態：公的単科精神科病院
- ・院長名：土屋 輝夫
- ・プログラム統括責任者氏名：高橋 浩二
- ・指導責任者氏名：高橋 浩二
- ・指導医人数：(5) 人
- ・精神科病床数：(359) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	1 9 7	4 8
F1	1 4 6	1 7
F2	2 0 2 4	3 2 2
F3	5 0 3	9 2
F4 F50	1 2 7	7
F4 F7 F8 F9 F50	3 8 4	6 5
F6	2 2	3
その他	1 5 1	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

南光病院がある一関市は岩手県最南端、盛岡と仙台の中間に位置しており、新幹線を使えば東京まで 2 時間余りで日帰りの研修会参加も可能な場所である。南光病院は県南地区の精神科医療の中核施設であり、半世紀以上にわたり地域の要請に応えてきた歴史がある。県の精神科救急医療体制において県南地区の常時対応施設となっているが、県によるシステムが発足する以前から365日24時間の精神科救急に対応してきた。小児から老人まで、任意入院から措置入院まで、精神科救急から超慢性期までと幅広い症例を経験することができる。スーパー救急病棟、精神科急性期治療病棟を有し、クロザピン療法、m-ECT、LAI（デポ剤）の積極的な使用に力を入れている。児童精神医学に早くから力を入れてきた歴史があり、児童外来、アルコール専門外来を行

っている。コメディカルの主体性を尊重した訪問看護、デイケア、リハビリテーションも精力的に行われている。そうしたチーム医療はさまざまな場面で力を発揮し、例えば地域移行において非常に有効に機能している。

地域連携を古くから重視し、110回を超える「両磐精神医療連絡会」の開催を続けており、顔の見えるネットワークを形成し地域との良好な関係を築いている。この関係を通して長期入院者の地域移行を積極的に行っている。

さらなる特徴として総合病院である岩手県立磐井病院が隣接していることがある。CT、MRI撮影のみならず脳血流シンチ、心筋シンチ、DATスキャンといった核医学検査を施行できる。リエゾン・コンサルテーション精神医学や緩和医療の経験を積むことが可能である。また夜間休日でも急な身体的変化の際には至急の採血やX-P、CT撮影が可能であり、磐井病院の医師への直接相談、救急の診察を得ることも可能で、単科精神科病院としては身体管理の上で極めて恵まれた環境といえる。

医療観察法の指定通院医療機関であり、司法精神医学についての学びも可能である。

B 研修連携施設

① 施設名：岩手医科大学附属病院

- ・施設形態：私立大学病院
- ・院長名：小笠原 邦昭
- ・指導責任者氏名：星 克仁
- ・指導医人数：(5) 人
- ・精神科病床数：(78) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	8 5	5 3
F1	2 4	1 9
F2	3 2 8	1 1 4
F3	2 4 6	1 0 6
F4 F50	1 9 3	4 8
F4 F7 F8 F9 F50	1 3 2	2 7

F6	1 1	7
その他	1 0 5	1 0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

大学病院としては最大級といえる 78 床の閉鎖病棟を有しており、隔離室 3 室、PICU(Psychiatry-Intensive Care Unit)4 床を備え、身体合併症例、措置症例等に広く対応するなど多種多様な症例を経験しうる。例えば、岩手医科大学附属病院は岩手県高次救命救急センターを併設しており、重篤な身体的侵襲を伴う自殺企図例を多く経験することができる。県の精神医療の中核として措置入院など精神保健指定医を取得するのに必要な症例も経験しうる。総合病院としてコンサルテーション・リエゾン精神医学を広く経験することができ、緩和ケアチームに加わる経験もできる。2019 年 9 月には矢巾新病院に移転し、大学病院としては初の児童思春期閉鎖病棟を有することとなり、児童思春期精神医学を学ぶ良い機会を提供できる。被災地のメンタルケアにあたる「こころのケアセンター」、被災地などの児童・思春期のメンタルケアにあたる「いわてこどもケアセンター」を併設しており、災害精神医学／トラウマケアの実践に参加することができる。年間 250 回以上の m-ECT を行っており、豊富な経験を得ることができる。クロザピン療法も経験できる。

② 施設名：独立行政法人国立病院機構 花巻病院

・施設形態：独立行政法人国立病院機構

・院長名：八木 深

・指導責任者氏名：河上 真人

・指導医人数：(2) 人

・精神科病床数：(144) 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	1 8 4	3 1
F1	9 7	2 2
F2	6 1 6	1 2 8
F3	6 9	1 2

F4 F50	7 5	3
F4 F7 F8 F9 F50	1 4 3	2 5
F6	1	1
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

岩手県中部地区における地域の中核病院として精神科救急を実践し、児童から老人まで幅広い疾患を扱っている。保健所と連携し、都市部とは異なる地域の訪問・往診医療を実践している。また心神喪失者等医療観察法に基づく司法精神医療を担う、東北地方でも数少ない病院である。全国の国立病院機構の精神科病院を中心としたテレビ会議システムを用いたクルズスを実施しており、専攻医の研修にとって大きなメリットとなろう。指導医は、精神科救急や司法精神医学に高い専門性を有しており、その指導の下、精神科救急症例、修正型電気けいれん療法（mECT）、治療抵抗性の統合失調症に対する先進的薬物療法であるクロザピン処方の実際、アルコールリハビリテーションプログラムといった高度の専門性を有する治療を研修できる。加えて、心神喪失者等医療観察法に基づく高規格の入院医療や、豊富な精神鑑定を経験できる。

③ 施設名：平和台病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：伊藤 欣司
- ・指導責任者氏名：伴 亨
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 289 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	4 9	5 2
F1	8	1 6
F2	7 9	7 3
F3	1 2 1	3 0

F4 F50	6 2	7
F4 F7 F8 F9 F50	8	2 3
F6	0	2
その他	9 6	1 5

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

花巻市と盛岡市の中間に位置し、地域唯一の精神科病院である。少子高齢化の地域柄を反映し、認知症の周辺症状や老年性精神疾患、高齢者の気分障害などの治療に当たる機会が多い。老年精神医学の専門医による指導を受けることができる。精神科作業療法、リハビリテーション、気分障害に対する認知行動療法にも注力している。

④ 施設名：社会医療法人智徳会 未来の風せいわ病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：田嶋 宣行
- ・指導責任者氏名：佐々木 浩行
- ・指導医人数：（ 5 ）人
- ・精神科病床数：（ 332 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	1 3 0	1 0 9
F1	3 5	6
F2	7 3 3	1 8 3
F3	6 5 5	1 2 3
F4 F50	4 8 4	7 5
F4 F7 F8 F9 F50	1 0 0 5	1 6 8
F6	2 7	3
その他	3 6	2

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

各種専門医療、地域精神医療に積極的に取り組んでいます。専門医療としては、児童・思春期精神科、依存症、難治性精神疾患治療（クロザピン、m-ECT）、認知症があり、各ライフステージに合わせた専門治療が可能です。また、医療観察法通院指定病院であり、精神鑑定も含め司法精神医学にも取り組んでいます。精神科急性期・救急にも取り組み、地域移行に力を入れており、地域の基幹的病院として貢献しています。

3. 研修プログラム

1) 年次到達目標

専攻医は専攻医研修マニュアル（日本精神神経学会策定）にしたがって3年間の研修をおこなう。研修期間中に以下の領域について広く学ぶことを求められる。1.患者及び家族との面接、2.疾患概念の病態の理解、3.診断と治療計画、4.補助検査法、5.薬物・身体療法、6.精神療法、7.心理社会的療法など、8.精神科救急、9.リエゾン・コンサルテーション精神医学、10.法と精神医学、11.災害精神医学、12.医の倫理、13.安全管理。

各年次の到達目標は以下の通りである。

・1年目：基幹施設において研修を行う。指導医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性精神障害、神経症圏の患者を受け持ち、面接の仕方、過不足のない病歴の記載、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学ぶ。コアコンピテンシーの習得、倫理観の涵養など精神科医としての大切な素養を身に付け、支持的受容的精神療法をベースに良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。指導医とともに当直業務を行い、精神科救急場面の経験を積み、典型的な入院患者を主治医として指導医と共に受け持つことによって、行動制限の手続きなど、基本的な法律の知識を学習する。隣接する岩手県立磐井病院からの要請に応じリエゾン精神医学の経験を積む。院内の研究会で症例報告を行い、地方の学会や県立病院学会で発表することを目指す。

・2年目：基幹施設または連携施設において研修を行う。指導医の指導を受けつつ、面接の技術と診断および治療計画の能力を高め、より自立した診療をおこなえることを目指す。神経症圏、発達障害、中毒性精神障害、パーソナリティ障害などの多様な疾患も経験する。力動的な視点を持ち、患者の生活史に深く配慮した治療目標と治療計画を立案、実践する。それぞれの施設において、特徴的な専門分野について学びを深くし、リサーチマインドの涵養をはかる。機会があれば全国規模の学会での発表や論文投稿を行う。

・3年目：基幹施設または連携施設において研修を行う。さらに興味関心のある専門分野について深く学び、幅広い経験を積み、指導医から自立して臨床を行えること

を目指す。心理社会的なアプローチや地域連携についても経験を深める。機会があれば全国規模の学会での発表や論文投稿を行う。精神保健指定医取得にむけてレポート作成を行う。

2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」（日本精神神経学会策定）、「研修記録簿」（日本精神神経学会策定）を参照。

3) 個別項目について

① 倫理性・社会性

指導医における日常的な指導に加えて、基幹施設における院内研修会を受講する。また、学会に参加しての講習や学会 e-learning にて理解を深めることもできる。精神科救急、リエゾン、地域連携などの場面において、他医療機関の医師やコメディカル、地域精神保健福祉関係の専門家と接することにより社会性を学ぶ機会を多く得ることができる。

② 学問的姿勢

基幹施設、連携施設において定期的に行われている症例検討会、勉強会に参加する。普段の診療において浮かんだ疑問をそのままにせず、エビデンスでは解決できない問題に対しても真摯に取り組み、文献にあたりつつ考えを突き詰めるなど日々の研鑽、知識の習得と定着に努める。経験した症例については施設内の勉強会で症例発表を行い、特に意義があると考えられるものは学会での発表や論文化を検討する。

③ コアコンピテンシーの習得

全研修期間を通じて 1)患者関係の構築、2)チーム医療の実践、3)安全管理、4)症例プレゼンテーション技術、5)医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの修得を目指す。さらに精神保健福祉法の理解、精神障害者の人権についての理解、精神科診断の歴史性を理解したうえで操作的診断基準を用いること、精神療法、合理的な薬物療法、リエゾンといった精神科特有のコンピテンシーの獲得を目指す。

④ 学術活動（学会発表、論文の執筆等）

基幹施設、連携施設を通じて臨床研究に従事し、その成果を学会発表、あるいは論文執筆の形であらわす。

⑤ 自己学習

各種学会や外部の研修会へ参加を積極的に支援している。学会誌をはじめとす

る精神科専門雑誌、専門図書、e-learning による自己学習を行い、知識の蓄積とアップデートを常に心がける。基幹施設、連携施設ともに複数の雑誌を定期購読しており、それらを活用する。その他、学会等で作成している研修ガイド、DVDなどを活用し、知識の研鑽を心がける。

4) ローテーションモデル

専攻医の個別の事情、興味や関心に応じて柔軟に対応するが、原則として

- ・1年目および3年目下半期は基幹病院にて研修を行う。
- ・2年目上半期と下半期、3年目上半期の研修は自由に基幹施設、連携施設を組み合わせることができるが、最低でも半年間は連携施設にて研修を行う。すなわち連携施設で研修する期間はおおのにおのに応じて半年～1年半となる。

1年目は基幹病院である岩手県立南光病院にて研修を行い、精神科医として臨床を行うための基礎的かつ幅広い知識と経験を身につける。同時に精神保健指定医の取得に必要な症例を経験する。積極的に地方会や県立病院学会で症例報告などの学会発表を行う。

2年目～3年目前半は連携施設または基幹施設にて研修を行い、それぞれの施設における専門分野について深く学び、特徴的な臨床経験を積み上げる。機会を捉え、できるだけ積極的に全国規模の学会での発表や投稿を行う。

3年目後半は基幹施設にて研修を行い、目標に到達できているか総括する。機会を捉え、できるだけ積極的に全国規模の学会での発表や投稿を行う。同時に精神保健指定医のレポートを上級医の指導のもと完成させる。

5) 研修の週間・年間計画

研修施設ごとのスケジュール（別紙）を参照のこと。

4. プログラム管理体制について

・プログラム管理委員会

委員長：医師 高橋 浩二

医師：土屋 輝夫

医師：星 克仁

医師：河上 真人

医師：伊藤 欣司

医師：佐々木 浩行

看護師：小野寺 浩美

PSW：遠藤 ひろみ

公認心理師：村上 智江

事務局：熊原 健一

プログラム統括責任者 高橋 浩二

・連携施設における委員会組織

研修プログラム連携施設担当者と専門研修指導医で委員会を組織し、個々の専攻医の研修状況について管理・改善を行う。

5. 評価について

1) 評価体制

岩手県立南光病院：高橋 浩二

岩手医科大学附属病院：星 克仁

国立病院機構 花巻病院：河上 真人

平和台病院：伴 亨

未来の風せいわ病院：佐々木 浩行

2) 評価時期と評価方法

・ 3 ヶ月に一度、プログラムの進行状況に関して、専攻医と指導医が確認しあう。目標の修正や必要があればプログラム内容の変更などを行い、その内容を研修プログラム管理委員会に提出する。

・ 6 ヶ月に一度、研修目標の達成度を当該研修施設の指導責任者と専攻医が個々に評価し、話し合いを持つ。その中で、必要に応じて研修内容の変更や修正などを行う。また、多職種からも専攻医の態度、コミュニケーション能力などについて評価を受け、これを本人と指導責任者にフィードバックする。

・ 1 年後に、当該年度のプログラム進行状況や研修目標の達成度を指導責任者が確認し、専攻医とミーティングを行う。それを受け、次年度の研修計画をお互いに相談の上で作成する。またその結果を統括責任者にフィードバックする。

・ その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿システムを用いる。

3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」に研修実績を記録し、定期的に指導医による形成的評価やフィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回おこなう。岩手県立南光病院にて専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管する。専攻医による、専門研修施設や専門研修プログラムに対する評価も同時に保管を行う。プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- 専攻医研修マニュアル(別紙)

- 指導医マニュアル(別紙)

・専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価を行い記録する。少なくとも年に1回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価を行う。研修を修了しようとする年度末には総括的評価を行う。

・指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価を行い、指導医も形成的評価を行い記録する。少なくとも年1回は指定されて研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価をおこない、評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックを行い記録し、翌年度の研修に役立たせる。

6. 全体の管理運営体制

1) 専攻医の就業環境の整備（労務管理）

基幹施設および連携施設の研修責任者とプログラム統括責任者は専攻医の労働環境改善と安全の保持に努める。専攻医の勤務時間、休日、当直、給与などの勤務条件については、労働基準法を遵守し、各施設の就業規定に従う。就業環境の整備が必要な時は、各施設の労務管理者が適切に行う。

2) 専攻医の心身の健康管理

各施設の健康管理基準に準拠する。各施設の指導担当者が専攻医の心身の状態に留意し、必要があれば専攻医にフィードバックを行ったり受診を促すなどの処置をとる。

3) プログラムの改善・改良

年2回、研修プログラム管理委員会を開催し、基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者によってプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

4) FDの計画・実施

年1回、プログラム管理委員会が主導し、各施設における研修状況を評価する。改良が必要な事項については話し合いを行う。

(別紙)

①岩手県立南光病院

年間スケジュール

4月	オリエンテーション、両磐精神医療連絡会
5月	
6月	日本精神神経学会、東北児童青年精神医学会
7月	
8月	全国自治体病院協議会精神科特別部会 岩手県立病院医学会、一関夏祭り
9月	両磐精神医療連絡会
10月	東北精神神経学会
11月	
12月	
1月	両磐精神医療連絡会、東北自治体病院精神科懇話会
2月	
3月	

主なものを記載しましたが、学会や研修会については希望によって随時参加が可能です。

週間スケジュール

	8:00-8:30	8:45-12:15	13:15-17:15	17:15-17:30	17:30-18:30
月	医局カンファレンス (フィルム、新患紹介、ベッド確認等)	主に外来診療 mECT	主に病棟診療	多職種カンファレンス	
火	医局カンファレンス	主に外来診療	主に病棟診療 児童外来	多職種カンファレンス	
水	医局カンファレンス	主に外来診療	主に病棟診療	多職種カンファレンス	医局会(月1回) 医局勉強会 (月1-2回) 医薬品説明会 (随時)
木	医局カンファレンス	主に外来診療 mECT	主に病棟診療 児童外来 精神保健相談 児童相談所 高田こころの 相談室	多職種カンファレンス	
金	医局カンファレンス	主に外来診療 児童外来 アルコール外来	主に病棟診療	多職種カンファレンス	

外来診療、病棟診療については主な時間帯を表示。デイケア、精神科作業療法、訪問看護は連日午前午後。急患対応は24時間365日。職場研修会は不定期開催(月に数回13:15-14:00)。

②岩手医科大学附属病院

年間スケジュール

4月	オリエンテーション
5月	
6月	岩手県精神医学会参加 日本精神神経学会参加
7月	盛岡・北上川ゴムボート川下り参加 北東北精神科研究会参加
8月	
9月	
10月	東北精神神経学会参加
11月	
12月	忘年会
1月	
2月	岩手県精神医学会参加
3月	納会

週間スケジュールの一例

	月	火	水	木	金
8:00~8:30	沿岸病院 出張				抄読会
8:30~12:00		予診 病棟業務	m-ECT 病棟業務	外来業務	
13:00~17:00		予診 病棟業務	病棟業務	病棟業務	教授回診 レクチャ
17:30~		カルテ回診 医局勉強会 など			医局会 医局勉強会 など

【教授回診】

毎週金曜午後に行う。患者毎に、主治医又は主治医グループの一員が、診断、状態像、経過、治療方針などについてコンパクトにプレゼンテーションし、教授と共に検討を行う。

【グループ回診】

毎週火曜日に行う。各自の受け持ち患者全例について診断や治療方針を確認するとともに評価を行う。

【症例検討会】

月1回定期開催の他、必要時臨時開催。難症例、インシデント・アクシデント症例、多患者間の問題を

含む症例など、全体での討議が必要または有効な症例について検討する。

【病棟カンファランス】

月 1 回定期開催。全看護師と医師、PSW が参加して、患者の状況や方針について情報共有し、それぞれの立場からの意見を擦り合わせる。

【抄読会】

毎週金曜朝に行う。医局員、心理室、医療相談室が参加し、持ち回りで海外の original article を、PPT を使ってプレゼンし、最新知見を共有するとともに、論文を評価、批判する力、論文をもとに討論する力を養う。

【レクチャ】

毎週金曜教授回診後に 1 時間程度の講義やグループワークを行う。一年次は通年毎週行われる。

【医局会】

第一金曜日終業後に定期開催の他、必要時臨時開催。院内・学内・学外の事項の通達や、必要事項の討議を行う。

【医局掲示板】

医局員が PC やモバイルツールからアクセスできる掲示板。セキュリティは保たれている。スケジュール、学内行事、各種連絡事項が出張先でも自宅でも迅速に把握できる。自宅学習用教材を備える。

③独立行政法人国立病院機構 花巻病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:30-9:00		(医局会) 退院事例 紹介	(医局機) 入院事例 紹介		
9:00-12:00	外来業務	病棟業務	院長回診	外来業務	病棟業務
13:00-16:00	病棟業務	病棟業務・ カンファレン ス	mECT 病棟業務	病棟業務	mECT 病棟業務
16:00-17:00	ケース検討		鑑定会議 (不定期)	隔離拘束 院長回診	多職種勉 強会

年間スケジュール

4月	オリエンテーション
5月	外部講師精神医学講演会(不定期)
6月	CVPPP(包括的暴力防止プログラム)研修 日本精神神経学会学術総会参加 日本司法精神医学会参加
7~8月	
9月	司法精神医学セミナー
10月	外部講師精神医学講演会(不定期)
11月	精神科救急学会参加
12月	外部講師精神医学講演会(不定期)
1月	
2月	外部精神医学講師講演会(不定期)
3月	病院公開フォーラム(公開研究発表)
その他	テレビ会議クルズス(週1回) 鑑定事例検討会(随時)

④平和台病院

年間スケジュール

4月	新入医局員・研修医オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会 日本老年精神医学会 日本トラウマティック・ストレス学会
7月	日本精神科医学会学術大会
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	
3月	日本解剖学会

週間スケジュール

	8:30-12:00	12:00-13:00	13:00-17:00	17:30-
月	主に外来診療		主に病棟診療	
火	主に外来診療	医局カンファレンス	主に病棟診療	
水	主に外来診療		主に病棟診療	
木	主に外来診療	医局勉強会	主に病棟診療	
金	主に外来診療		主に病棟診療	各種勉強会参加 (随時)

⑤社会医療法人智徳会 未来の風せいわ病院

年間スケジュール

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	
10月	県精神科医会参加、県精神保健福祉大会参加
11月	地方精神神経学会参加・演題発表
12月	日本精神科救急学会参加
1月	
2月	研修プログラム管理委員会参加
3月	研修プログラム評価報告書の作成

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:30-12:00	朝カンファ 9:00-9:30 病棟診療 ~11:30	外来診療 (再来)	入院カンファ 9:00-9:30 病棟診療 パスカンファ (A5病棟) 11:00-12:00	外来診療 (再来)	外来診療 (新患) パスカンファ (A3・4病棟) 11:00-12:00
12:00-13:00	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩
13:00-17:00	医局会 12:30-13:00 病棟診療 夕方カンファ 16:30-17:00	病棟診療 夕方カンファ 16:30-17:00	病棟診療 夕方カンファ 16:30-17:00	病棟診療 夕方カンファ 16:30-17:00	第2週 婦人相談所 13:30-16:30 第4週 県警少年サポートセンター 14:00-17:00 病棟診療 夕方カンファ 16:30-17:00